



i 講習会実施報告[1月~3月]

講習会 現場の失敗事例に学ぶ 施工管理セミナー(3unit)

- 日 時：1月18日(木) 13:30~16:30
- 会 場：エッサム神田ホール2号館4階[2-401]
- 講 師：黒図 茂雄 氏(クロズテック(株)代表)
- 参 加 者：25名

アンケート結果(抜粋).....

- ・現場で抱えている課題を具体的に聞くことができた。
- ・改めて段取りの重要性を確認できた。
- ・基本を振り返ることができて良かった。

講習会 コンクリート維持管理技術講習会 (上級編)(6unit)

- 日 時：2月2日(金) 10:00~16:30
- 会 場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
[RoomC]
- 講 師：十河 茂幸 氏(近未来コンクリート研究代表)
江良 和徳 氏
(一社)コンクリートメンテナンス協会 事務理事・博士)

■ 参 加 者：61名

アンケート結果(抜粋).....

- ・補修技術の選定プロセスや維持管理シナリオ等は今後の仕事の参考になった。事例も聞けて良かった。
- ・説明図や写真を多用した講習でわかりやすかった。
- ・コンクリート診断士の資格取得を目指しているが、大変有意義な講習会だった。



説明会

《東京都主催》 盛土規制法に係るオンライン説明会

- 日 時：2月8日(木) 15:00~16:00
- 開催方法：オンラインセミナー
- 講 師：東京都都市整備局担当者
- 参 加 者：70名

i

講習会・見学会開催案内[4月~6月](予定)

研修会

令和6年度 建設業新入社員研修会

- 日 時：4月2日(火)・3日(水)
10:00~17:00(2日間講習)
- 会 場：有明セントラルホール&カンファレンス
[ホールB]
- 講 師：寺田 光宏 氏(東京土木施工管理技士会会長)
市場 真理子 氏(会社の現場監督(同))
村井 美月 氏((株)ハナマルキャリア総合研究所)
田和 英夫 氏(日本建設(株)代表取締役社長)

講習会

原価管理講習会(4unit)

- 日 時：5月30日(木) 13:00~16:30
- 会 場：飯田橋レインボービル1階[C会議室]
- 講 師：中村 秀樹 氏(ワンダーベル(同)代表)

講習会

1級土木施工管理技術検定(第1次試験) 受験準備講習会(17unit)

- 日 時：6月5日(水)~6日(木)
1日目 8:30~18:30、2日目 8:50~17:40
(2日間講習)
- 会 場：KFC Hall&Rooms[Room115]
- 講 師：社内教育に実績のある講師10名
石川 尊廣 氏((株)安藤・間)、東坂 昌輝 氏(鹿島建設(株))、
奥村 拓央 氏((株)熊谷組)、黒木 孝文 氏(五洋建設(株))、
文随 尚 氏(佐藤工業(株))、東屋 克典 氏(清水建設(株))、
吉沢 一憲 氏(大成建設(株))、青木 京平 氏(戸田建設(株))、
南方 文明 氏((株)フジタ)、落合 秀和 氏(前田建設工業(株))

研修会

現場代理人の折衝力強化研修会
(3unit)

- 日 時：6月21日(金)13:30～16:30
- 会 場：ワイム貸会議室「Room7A」
- 講 師：東 和博 氏((株)ランパス 代表取締役)

見学会

東西線飯田橋・九段下間折返し設備設置
九段下工区改良土木工事(2unit)

- 日 時：5月16日(木)14:00～16:00
- 協力会社：五洋建設株式会社

講習会

安全管理講習会(3unit)

- 日 時：6月20日(木)13:30～16:30
- 会 場：飯田橋レインボービル2階「中会議室」
- 講 師：久高 公夫氏
(株)フジタ東京支店安全部シニアコンサルタント)



詳細は当会ホームページをご覧ください
<https://www.to-gisi.com>

見学会レポート

日本航空安全啓発センターを視察しました

当会の事業運営委員会は1月25日に大田区の「日本航空安全啓発センター」を視察しました。航空事故に関わる展示物をJALのスタッフがひとつひとつ丁寧に解説するその姿勢や内容は、参加者に強く投げかけるものがありました。あらためて安全管理の重要性、命の尊さを考え、安全意識が高まる見学会となりました。

- 日 時：1月25日(木)15:00～16:30
- 場 所：JALメンテナンスセンター1(大田区羽田空港3-5-1)
- 参加者：20名



参加者の感想

▶▶ 建設の安全とはまた違う分野ではありますが大変参考になりました。建設工事でも過去に数えきれないほどの災害を繰り返しており、その結果として厳しい法規制や社内の安全ルールのもと施工しております。しかし、災害への備えを日々怠りなく実施しているかという点が残念ながら形骸化が問題となっております。先日の羽田空港の旅客機炎上事故もそうですが、一生に一度あるかないかという事態に備える普段の備えこそが大切であると痛感しました。

▶▶ 以前より、JAL安全啓発センターには一度行ってみたいと思っていましたが、なかなか予約が取れず、今回は良い機会となりました。事故の原因となった圧力隔壁や事故機の残骸、亡くなった方々の遺品、極限状態での遺書などを実際に見ることができ、期待していた以上に心を強く打たれました。ガイドの方から、JAL社員でも当時の事を知っている社員は1%を切ったと聞きました。このように事故を形として残すことで風化させず、次の世代に引き継ぐことができます。安全意識の向上が求められる中で、受け身でなく、自ら安全について考える良い時間となりました。

▶▶ 安全に対する意識の高さは勉強になるものばかりで、我々も見習うべき点が多々ありました。事故に関する情報をあそこまで詳しくにするとするのは、「二度と同じ過ちを繰り返さない」という強い覚悟があるからだと思います。また、「2.5人称の視点」という言葉は初めて聞いたものだったので、非常に印象に残りました。異なる業界だからこそ、安全に対する視点も異なるのだと思いますが、そうした新たな視点を手に入れることは通常業務ではなかなかできないので大変勉強になりました。

▶▶ 御巣鷹山の日航機ジャンボ事故のことを今までテレビの中の出来事だと思っておりましたが、実際の機体や遺品を見て胸を締め付けられました。最後まで着陸を試みていた会話記録からも、大変な緊迫感を感じました。航空業と建設業では業種は異なりますが、安全に対して等しく高い意識を持つべきだと思います。三現主義や2.5人称のように当事者意識を持って現場に向き合いたいと思います。

▶▶ 事故の直接の原因は補修方法が指示されたものと異なる方法で行われたとのことでありましたが、日常の点検で発見できなかったことも重要な視点ではなかったかと思っています。今回の視点は土木分野でもとても役にたつものであったと思います。最後に多くの方々のご冥福をお祈りいたします。